

環境と人間Ⅱ

森林・里山と人間

日時：平成22年8月1日（日） 13:00～15:00

講師：只木 良也（名古屋大学名誉教授・国民森林会議会長）

概況



○森林:世界の中の日本 日本の中の濃尾平野

1 森林は雨が育てる:日本には、「あとは野となれ山となれ」ということわざがある。これは、「無責任に放っておく」という意味であるが、なぜこのように言うのだろうか。日本は、雨がよく降り、野原を放っておいてもやがて山(森林)になっていく。これはつまり、日本という国は水に恵まれた国であるということである。日本では、全国の年間降雨量は平均 1700mm/年である。この降雨量が植生を決め、森林をつくる(例:乾燥が進むと砂漠化し、降雨量により草原→サバンナ→森林と変化する)。

2 世界の森林:森林とは背の高い木の集まりである。森林の条件は 3 つあり、①高木があること②ある程度の面積に広がり、③その面積が枝葉で覆われて地面が見えない鬱閉(うっぺい)とした状態の木の集まりのことをいう。世界の森林は、降水量の制限から、現在の陸地面積の 1/4(約 40 億 ha)であり、森林は発達しにくい。最近では、熱帯雨林を中心に減少している。

3 わが国の森林:日本は国土面積の 2/3 (2512 万 ha) が森林で覆われている。多降雨量で、暑い夏の気候により国土自然の原型は森林である。

4 愛知県(平野部)の森林:県森林面積は県土の 44% (221 千 ha) を占める。その多くは人工林である。森林は、標高 300~400m では暖温帯照葉樹林(常緑広葉樹林)、それ以上は中間温帯落葉樹林である。愛知県の森林の歴史は、現状は二次

林・手入れ不足の人工林が多い。最近では、人工林・里山の竹林かが進み、カシノナガキクイムシによるナラ・シイ・カシ類の被害が拡大している。

5 里山の保全：農地・農村は、周辺の森林(里山)に支えられきた(例：落葉・薪、木材等)。里山は、環境保全機能的(水のかん養、災害防止等)・生態学的(様々な生物が暮らす場所となる：生物多様性機能)・文化的(里山の暮らしを支えた：森が田を育て、米が森を守った)な面で私たちの生活に必要なものであり、日本的なものの考え方として、「人と自然との共生」という考え方があった。

6 これからの里山：新たな時代の利用法や管理法を見つける必要がある。都市部に近い里山を都市施設として位置づけではどうか。